

# 2015 年度 センター試験 数学ⅡB (新課程) (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題選択
<p>総評</p> <p>新課程初年度ということで、旧課程から出題量・問題構成等の変更がどれほどあるかが注目されたが、多くの受験生が取り組んだであろう第 1 問～第 4 問については、結果として新旧両課程で同じ問題であった。昨年姿を消した「三角関数」が第 1 問で復活し、第 2 問の微分法の問題では「平均変化率」「微分係数」を求める問題が目新しく、戸惑った受験生もいたと思われる。出題項目に昨年からの変更が多少あったものの、典型的なテーマの問題が多く、誘導も丁寧であった。ただ、総じて全体的に計算量が多く、制限時間内に完答するには確かな計算力が必要であったと思われる。</p>	

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	[1]三角関数 [2]指数・対数関数	30 点	[1]辺の長さなどを三角関数で表し計算する標準問題。(2)の「一直線上」は通過点を代入、「直角」は三平方の定理、と素直に計算すれば問題なく解答できる。 [2]指数方程式、相加相乗平均を使う標準的な問題。指数計算を丁寧に行えば特に問題ない。対数を使って解くことも可能である。
第 2 問	微分法・積分法	30 点	(1)の「平均変化率」「微分係数」に動揺したかもしれない。(2)は(1)が解けなくても、慌てずに微分を用いれば解けたはずである。なお、三角形の面積を工夫して計算することで、解答時間を短縮することができる。
第 3 問	数列	20 点	周期数列の問題。周期性に基づいて一般項を場合分けする部分がやや難しく感じられた。(4)の連続項の積については、計算が煩雑であるため、確かな計算力が必要であった。
第 4 問	ベクトル	20 点	平面ベクトルの標準的な問題である。「正三角形 2 個で構成されたひし形」であることに注目し、誘導に従って計算すれば解答できたはずである。
第 5 問	確率分布と統計的な推測	20 点	省略